

本来あるべき生き方へ

皆さんは、日々を何のために生きていますか。あなたが生きる意味は何ですか。

全国10〜60代の男女1733人を対象にしたある調査では「生きている意味が分からない」と答えた人が全体の38%。10代ではほぼ半数と若い世代の割合が高い一方、50代の32%、60代でも22%がそう答えています。先の見えない若者にとっては切実な問題であり、経験豊富な中高年者にとっても悩ましい問題といえそうです。

「昨日、私たちの生き方、生活の在り方を問い掛けるような出来事が頻発しています。」

東日本大震災などの大地震、各地で起こる豪雨災害など、大規模

フスタイルマガジンとして、現代社会に求められる質の高い生き方を提案してきました。

皆さんはそれらをどのように受け止められたでしょうか。

「ご登場いただいた方々の言葉は、現在にも通じる普遍的なものばかりです。」

「物理的なもの、例えば家や家財道具、お金や人間関係も、いつかは価値が変化したり無くなった

な災害に見舞われてきた日本。ただ、その影響はどれも限られた地域にとどまるものでした。

しかし、緊急事態宣言が発出され、解除後の今も広がる、このたびの新型コロナウイルス感染症は、もはや国民全体の、否、世界人類に共通した課題になりました。人ごとではなく、自分の問題として考えざるを得なくなったのです。

まして、若者の自死、生活習慣病や心の病の悩み、单身世帯の増加など、孤立と分断がさまざまな問題を引き起こしている中でもあります。大きな転換期を迎えているといえるでしょう。

そんな中で、私たちは何を、ど

りする、有限のものです。そうではなく自分の核になる無限のもの、スピリチュアリティですね。

生きていく上で本当に大事なものはそれだと分かっていたら、どんな時も自分の中心は揺らぎませんから、心の安らぎを得られます。そして体験を通して感じたことを糧に人として成長し、また新たな力を得ていく。それは、とても健やかな生き方だと思いませんか」

【80号・吉田紀子（一社）日本統合医療学会鹿児島支部支部長】

「私たちが自然治癒力を尊び、発揮できる環境を整えるよう心掛けることは宇宙意識にかなうことでもあり、それゆえに体だけでなく、心や魂までも進化、発展させていけるのだと思うのです。それが人として自然で、幸せな生き方でもあるのではないのでしょうか」

【70号・坂本昭文鳥取県南部町前町長】

「本来は誰一人として置き換え可能な存在ではなく、誰もがかけがえない一人なのです。そこに

うしていけば良いのでしょうか。

諸富祥彦明治大学文学部教授は本誌47号でこう語っています。

「東日本大震災」以来、私たちの中でも大きな地殻変動が起きています。悲しみの共同体の中で、これからどう生きるべきかを、祈るようになっていきます。このままではいけない、生き方を変えなければならぬということ、日本人全体が共有し始めているように感じます」

本誌は2000年の創刊以来、MOAの創始者・岡田茂吉（1882〜1955）の思想哲学に基づき、より良く、より美しく、より健康的な生き方を応援するライ

気付けるかどうか、今、社会全体で問われているのだと思います。（中略）同僚や同級生という、集団としての仲間の大切さももちろんですが、それ以上に『目には見えない大きなものに支えられ、命を頂いて自分はここに存在するのだ』という感覚を得ることが大事なのです」

【50号・上田紀行東京工業大学リベラルアーツセンター教授】

登場いただいた皆さんの訴えに共通しているのは、本来あるべき生き方へ転換する大切さです。

岡田茂吉は「元来、天地間の森羅万象あらゆる物の生成化育、離合集散、栄枯盛衰は自然の理による」「人間なるものは大自然の中に呼吸し、大自然の力によって生育するのである」と述べています。

私たち一人一人は、大自然の中で生き、大自然に生かされている存在です。目に見えない自然の摂理を知って、それに従った生き方をするのが幸福への確かな道なのかもしれません。

